

令和5年8月24日

10時39分 受付

## 一般質問発言通告書

議席番号 21 番

氏名 川神 裕司

答弁を求める者

市長

教育長

監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1 地域活性化のためのインバウンド施策の推進について

##### (1) 浜田市におけるインバウンド対策の現状と課題について

- ① アフターコロナの現在、日本遺産「石見神楽」等浜田に関心を持つ訪日外国人が少しずつ増加傾向にあると実感しているが、最近の浜田市の外国人観光客の動向を問う。
- ② インバウンド対策の成功のカギは、食・温泉・伝統文化、自然やそれを活かしたアクティビティ等「地域資源」を活用したコンテンツが重要だが、同時に多言語対応やフリーWi-Fi設置等、地域の受け皿機能の強化が重要と考える。浜田市がインバウンド対策を推進するために現在考えられる課題について問う。

##### (2) 訪日外国人の目に止まるインバウンド施策の展開について

- ① 地域のインバウンド戦略を検討する場合、産官学を中心に行われると考えるが、今後インバウンド対策を推進する場合推進体制はどう整えていくのか問う。
- ② 最近では訪日外国人の地域への訪問を待つだけでなく、呼び込みたい施設や観光地、食の名店等に計画的に訪問してもらえる取組が進んでいる。その施策のひとつが「デジタルスタンプラリー」であり、Webサイトやアプリが多言語に対応していれば訪日外国人がストレスなくコンテンツを楽しめることが可能である。参加者の行動はアクセスデータの形で蓄積され観光スポットの回遊率等のデータが得られる。この取組導入に対する市長・教育長の所見を問う。

#### 2 命を守る救急救命体制の強化について

救急事故が発生した場合、その命は、市民による応急処置(BLS)～救急隊員の応急処置と搬送～医療機関による救命処置の三者連携が不可欠である。特に市民による応急処置と救急隊員による救急搬送が重要と認識している。

(1) 「まち」全体を医療チームと捉える「Heart Safe City」構想について

- ① 地域の人、行政、企業が手を結び、「まち」全体を救急チームとして捉える、「Heart Safe City」構想を救命の柱として取り組んでいる自治体があるが、当市も全市一体となり救命先進都市を目指す戦略を示す考えはないか、市長の所見を問う。

(2) 市民の救急救命対策のスキルアップについて

- ① 市民の役割として、救急事故が発生した時のBLSは極めて重要である。その対応のために地域をあげて心肺停止に対するAED講習や熱中症対応講習等が不可欠と考える。最近各種救命講習の受講者が減少傾向にあるが、全市を挙げた市民の救急救命のスキルアップが急務ではないか所見を問う。

(3) 「命」を救うAEDの適正配置について

- ① 心肺停止時に大きな力を発揮するのがAEDであるが、令和3年総務省消防庁のデータによると全国で約4.2%程度しか利用されていないとのこと。利用方法、設置場所のデータ等いざという時に活用できるか実際はハードルが高い。現在浜田市では、「まちかど救急ステーション」という、AED配置推進を応援するという、救急救命に大きなアドバンテージとなる制度が運用されており、評価している。この制度は浜田市から取組が始まったと認識しているが、現在の「まちかど救急ステーション」の運営課題を問う。
- ② 心肺停止後、救命率が大幅に落ちる5分間の間に「命」を救うためのアプローチとしてAEDの使用は不可欠。今後、心原性心肺停止に対応し安全のまちづくりを実現するために、AEDの全市的視点で効果的な配置をデザインする必要があると考えるが市長の所見を問う。

(4) 円滑な救急搬送を実現するための課題について

- ① 「命」を守るために忘れてならないのは救急隊員による円滑な救急搬送である。最近では多くの消防職員が救急救命士を取得し救命機能が向上しているが、搬送における中山間地道路事情や職員勤務体制等課題も多いと聞く。総務省消防庁では、今後の円滑な救命搬送等の実現のために、マイナンバーカードを活用した救急業務の迅速化・円滑化に向けた検討、実証実験を始めている。このように搬送体制も含めた消防業務の改善のため多くの取組がなされているが、当市の課題分析について問う。

(5) 港湾工事における潜水土の救急事故対応について

- ① 「浜田港福井地区新北防波堤」の整備に続き、「浜田福井地区岸壁(水深14m)」を国へ要望され、向こう10年間多くの港湾工事が進められると考える。さて港湾工事において潜水土が潜水病等の潜水事故に遭遇した場合、100km先の山口県・萩市の病院が緊急搬送先に指定されていると聞く。理由は「高気圧酸素治療施設」を有しているからとのこと。浜田港は県内最大の浜田港を抱える「港湾都市」である。万が一の潜水事故に対応できる救命施設がないことは非常に残念だが、この現状をどう認識しているか市長の所見を問う。